

TREND IN ALLERGY

ADACHI, Atsuko

足立厚子

兵庫県立加古川医療センター皮膚科部長

アレルギーをめぐるトレンド

食物による全身型金属アレルギー Systemic metal allergy due to food

金属アレルギーには、皮膚に接触した金属が接触皮膚炎を起こす金属接触アレルギーと、食物中や歯科金属から消化管などを通して全身に吸収されてさまざまな発疹を起こす全身型金属アレルギーとがある。最も多いのは汗疱状湿疹である。

はじめに

金属は経皮、経粘膜、経腸管あるいは経気道経路で体内に吸収され、汗、乳汁、涙、尿、糞便中に排泄される¹⁾が、金属アレルギーの一部の患者では、このように体内に吸収される微量金属によりさまざまな発疹が惹起される^{1,2)}。この病態をわれわれは全身型金属アレルギーという病名で1992年に提唱した¹⁾。とくに口腔粘膜や消化管から吸収されてアレルギー反応を起こすものが重要で、汗疱状湿疹(図1)、亜急性性痒疹、多形慢性痒疹(図1)、貨幣状湿疹、pseudo-atopic dermatitis(偽アトピー性皮膚炎)、掌蹠膿疱症、扁平苔癬、紅皮症などを起こし得る。パッチテストの本邦集計において、アレルギー陽性率10位のうちに、ニッケル、コバルト、クロム、金と4種の金属が入る。全身型金属アレルギーを起こすのも同様で、金は装身具や歯科金属に含まれるが、ニッケル、クロム、コバルトは矯正目的以外の歯科金属に含まれることは少なく、主として食物由来である。

全身型金属アレルギーの診断について

スタンダードアレルギーや金属アレルギー試薬によるパッチテストを用いて、少なくとも1週間後まで判定する。